

2022年新春旗開き

2022年1月9日目黒さつきビルにおいて、新幹線地本新春旗開きを開催しました。司会に庭山副委員長、杉澤委員長主催者挨拶から始まり、来賓畑野本部副委員長、尾崎 OB 会長、やじんき事務所代表の渡辺弁護士から現状と今後の闘う方向性等の挨拶を戴きました。

講演「リニア建設反対の視点と今後の闘う方向性」ジャーナリスト榎田秀樹氏

ジャーナリストの榎田さんの講演で、リニアの計画、財政、残土、自然環境、住民との問題点が明らかにされました。

- ①**水枯れ問題です。**ルートが8割以上が地下トンネルのため多くの沢や川で水枯れが起きています。簡易水道の水源を止めてしまいその補償として、井戸を掘り地下水の揚水を汲み上げる施設と電気代30年分を一括で支払っていますが、31年目からは住民が自前で水を確保しなければなりません。
- ②**残土問題です。**熱海市での残土(約5.5万立米)が土石流となり、26人の死者を出す惨事がありました。リニア計画(残土5680万立米、東京ドーム50杯分)でも同様の危険な盛土があります。
- ③**財政問題です。**会社は、21年5月25日東京・名古屋の建設費の1兆5000億円増額を決めました。どう調達するのでしょうか？この調達により借金は最大で6兆円まで増えます。
- ④**陥没問題です。**シールドマシンの振動による陥没の危険性やそれへの不安に脅かされる毎日を送ることになるとして、ルート上の地域にある一つの田園調布の住民が、20年7月、リニア工事差止の民事訴訟を起こしました。その他にも様々問題点があります。

住民、社員のためにリニア建設は直ちに中止せよ！

リニア建設により自然破壊、生活水を枯らし地盤の陥没の可能性があるなど、地域住民に不安をあたえ、しかも、ペイしない事業に社員の生活を脅かしてまでするリニア建設は必要でしょうか。コロナ禍で財政は厳しくなります。今なら会社存続に間に合うのです！今何をすべきか、直ちにリニアを中止すべきです。

コロナ禍の中で大変厳しい状況ですが、今年も闘いの始まりです！

- ①会社は職場から JR 東海労組合員を放逐する事を目的とした、54歳原則出向を再開したのです。しかも放逐するときながら、職場では多数の乗務員の養成を行なっています。私たちは、会社の組織破壊を粉砕するために、簡易苦情申告、淵上さんの出向命令取消処分、スリーエストの団交など展開してきました。その結果、木下本部委員長出向取消、淵上さんの出向解除を勝ち取ることが出来ました。しかし、淵上さんを元職場である東京第二運輸所に戻さず、新横浜駅に配属にさせられたのです。**私たちは、淵上さんを東京第二運輸所に戻すため労働審判を行い闘います。**
- ②水野さんに対して、JR 東海会社のパワハラ、異常な労務管理に対して訴えてきましたが、**行政訴訟控訴審の不当判決に対して最高裁判所に上告し闘います。**
- ③年休裁判は4年目を迎え、1月27日に22回目の進行協議を開催します。**原告団全員の陳述書を出し、木下本部委員長、竹信先生を証人として証人尋問の段階に入り闘います。**

本来あるべき民間企業としての未来ある会社に戻す為に、JR 東海労は闘います！